

第5章

活動の評価

第5章 活動の評価

本活動計画は、毎年、対象者へのヒアリングやアンケート調査などの実施により、活動の評価を行い、結果を随時ホームページなどで公表していきます。評価は“圏域別活動計画”、“福祉重点項目”、“行政提言”、それぞれ別に行います。

1 圏域別活動計画

圏域別活動計画の中に評価のステップを組み込んでいます。住民主体で策定する活動計画は、Plan(計画) — Do(実行) — Check(検証・評価) — Action(改善・再企画) というPDCAサイクルを回すことにより、実施した事業の評価を定期的に行っていきます。

2 福祉重点項目

福祉重点項目ごとに設定された活動指標がどの程度達成されているのか調査し、評価します。必要に応じて、最新の社会情勢などを反映した目標数値の見直しを行います。

また福祉重点項目別に、市社協の取り組みの実施によって、地域や市民にどのような変化が起こったのか調査を行います。具体的な調査項目の例としては以下のようなものがあげられます。

<調査項目(例)>

①地域を見守り・見守られる環境づくり

- ・認知症徘徊高齢者が無事保護された割合
- ・総合相談窓口で相談を受け、適切な支援につながった件数

②福祉の担い手づくり

- ・ボランティア講座を受けた人数のうち、実際のボランティア登録・活動を行った件数
- ・介護職員初任者研修受講者のうち、実際に介護の仕事に就いた人数

③誰もが安心できる居場所づくり

- ・市内のサロンの参加者数や利用満足度、リピート率
- ・当事者団体への加入率やイベント・相談会などへの参加満足度

④ 地域を支えるお金の仕組みづくり

- ・ 寄付や会費の継続率
- ・ 再配分された団体などの活動実績（成果）

⑤ 福祉情報を得る仕組みづくり

- ・ 福祉情報ステーション、もしもしポストの利用件数と利用満足度
- ・ 市社協発信の情報の有用度

本活動計画にもとづいて実施した事業が、福祉重点項目の達成に寄与しているのかを意識しながら、ここであげた調査項目自体についても必要に応じて見直しを行っていきます。

3 行政提言

行政への報告内容・報告回数にとどまらず、提言が実際に政策に反映された数などによって評価します。



